

わが

笑顔ひろがり、活力にあふれる オホーツクの中核都市 北見を目指して

魅力あふれる4つの自治区

北海道北見市は、2006年3月に北見市、端野町、常呂町、留辺蘂町の1市3町が合併して誕生した道内第1位の行政面積を有するオホーツク圏最大の都市です。また、大雪山のふもとからオホーツク海沿岸に至る道路延長は、東京から箱根までの距離に相当する110kmもあります。四季折々の鮮やかな自然とゆとりある都市空間を有する「北見」、美しく広大な田園が広がる「端野」、国内有数のホタテの産地である「常呂」、北海道屈指の温泉郷「温根湯温泉」がある「留辺蘂」。魅力にあふれた4つの地域がそれぞれを「自治区」として、地域の特性を生かしながら均衡ある発展を目指しています。

オホーツク環境が はぐくむ良質で豊富な 一次産品

2017年産の本市の玉ねぎ総生産量は約24万tであり、北海道全体の収穫量の約30%を占め、日本一の生産量を誇ります。北見盆地特有の昼夜の寒暖差が大きい気候の下で栽培された玉ねぎは、球のしまりが良く、加熱により甘みを増すところにも特徴があります。当地域では、辛味の少ない早生品種から越冬用に向く晩生品種まで多品種が栽培されており、播種時期をずらした栽培により、8月から翌年の4月まで継続して出荷できるのも強みとなっています。また、サロマ湖はホタテ養殖発祥の地として知られており、漁業

者が苦難の末に確立した増養殖技術が世界有数のホタテ産地「常呂」の礎となっています。サロマ湖とオホーツク海がはぐくんだホタテは肉厚で甘みや食感も格別であることから、高級食材として世界各国で重用されています。

世界初の水族館と LS北見の躍進

本年7月に、留辺蘂自治区の「山の水族館(北の大地の水族館)」がリニューアルから6年を迎えました。当館は、幻の魚ともいわれるイトウの飼育数が日本一であり、また、ドーム状になった水槽で頭上から流れ落ちる滝を見上げる、日本初の「滝つぼ水槽」や結氷した水面の下を泳ぐ魚の様子が鑑賞できる世界初の「凍る水槽」など、ユニークな展示が好評をい

ただき、リニューアルオープン以降、延べ100万人を超えるお客さまにご来館いただきました。さらには、水族館の改築を含む温根湯温泉街再生整備計画事業が、北海道内で初めて、まちづくり情報交流大賞の最高賞「国土交通大臣賞」を受賞しました。

常呂自治区は合併前の旧常呂町の時代よりカーリングが大変盛んな地域です。1988年には国内初となる屋内専用施設「常呂町カーリングホール」を設置し、国体をはじめ各種の国際大会を開催したほか、地元選手の競技力向上に寄与してきました。

2013年には、国際大会開催規格に準拠し、国内最大級の競技場数6シートを有する通年型の「アドヴィックス常呂カーリングホール」を新設し、競技スポーツ、生涯スポーツの両面からカーリングの普及促進に取り組んでいます。こうした取り組みにより、これまでに数多くのオリンピックや



オホーツクで生まれ育った私たちが、
オホーツクのクールな魅力を発信します。

オホーツクールの2018年度アンバサダー「LS北見」

トップカーラーを本市から輩出しており、本年2月に開催された平昌(ピョンチャン)冬季五輪では、女子日本代表として出場したLS北見(ロコ・ソラーレ)が、日本カーリング史上初の五輪銅メダルを獲得しました。選手全員が本市出身かつ本市在住であるLS北見の快挙によって、カーリングのまち北見市の名前を全国はもとより世界の皆さんに知っていただき、大変喜ばしく思います。

また、本市を含むオホーツク管内の全市町村が、地域活性化のために一体となって取り組むイメー ジ発信事業「オホーツクール」の本年度のアンバサダーをLS北見のメンバーにお願いしました。今



通年で利用可能な屋内遊戯場「パラきたKids」

後、さまざまな広告やキャンペーンでオホーツクの魅力を全国に発信していただけることになってい ます。

地方創生への取り組み

本市では、今後一層進む人口減少と少子高齢化への対策として、2016年2月に策定した「北見市地方創生総合戦略」に基づき、子育て環境の整備による少子化対策や、若者などの雇用確保に向けた経済活性化策などをはじめ、生活環境の充実や北見の魅力を高めるさまざまな取り組みを進めているところ です。これまでに、屋内遊戯場「パラきたKids」の開設や子ども医療費助成の拡充、家庭用

プロフィール

紙おむつ類の無料回収を開始したほか、小中学校への実物投影機および大型デジタルテレビの導入による教育環境の一層の充実などに取り組んでいるところです。また、産業施策では、都会から地方へ、人材や仕事を移す新たな働き方である「テレワーク」の推進

点として、「サテライトオフィス北見」を整備するとともに、本市の食と宿泊を核として、道東を周遊する新たな顧客を掘り起こす着地型観光の振興を進めるなど、将来にわたり持続的発展が可能な、活力あるまちづくりに引き続き取り組んでまいります。



北見市長
辻 直孝

〔市町村合併〕2006年3月5日、北見市、端野町、常呂町、留辺蘂町が対等合併

〔特産品〕玉ねぎ、白花豆、ハッカ、

〔将来都市像〕ひと・まち・自然をめぐりオホーツク中核都市 ―安心な活力都市北見―

〔まちの特徴〕東はオホーツク海から西は石北峠まで110kmの長さに達し、北海道1位・全国4位の広さを誇るまち

ホタテ、サケ・マス、地ビール

〔観光〕温根湯温泉、山の水族館、アドヴィックス常呂カーリングホール、サロマ湖ワッカ原生花園

〔イベント〕北見ほんちまつり、おんねゆ温泉まつり、たんのカレーライスマラソン、きたみ菊まつり、北見厳寒の焼き肉まつり



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

緑豊かな環境で、安心して子育てができるまち、八千代市に

ベッドタウンとして発展

千葉県北西部に位置する八千代市は、なだらかな台地が広がり、地域の中央を南北に貫くように新川(印旛放水路)が流れています。市の北側は、低地を流れる新川の周辺に水田や斜面緑地が広がる豊かな自然を残した田園風景が、南側は、鉄道沿線を中心に市街地が形成されています。

本市は、京成本線と東葉高速線の2つの鉄道を持ち、都心から31kmに位置した利便性からベッドタウンとして発展してきました。

市のシンボル「新川」は市民の憩いの場

市の中央を流れる新川周辺は、市民の憩いの場となっています。水と緑の調和が美しい両岸にはお



「新川千本桜の会」のボランティアが手入れをする桜並木

よそ10kmにわたり、ソメイヨシノや河津桜をはじめとする8品種・約1300本の桜並木が続き、春には多くの花見客が訪れます。さまざまなイベントの会場となる八千代総合運動公園と県立八千代広域公園は、新川を挟んで隣接し、それを結ぶ村上橋には、日本

を代表する彫刻家の一人である佐藤忠良氏が制作した「太陽」と「緑」の2体のブロンズ像が設置され、道行く人々を見守っています。

この周辺には、中央図書館や総合グラウンド、市民体育館などの施設があり、夏は「八千代ふるさと親子祭」、冬は「ニューリパードレースin八千代」など、年間を通して、文化・スポーツ活動の拠点としてにぎわっています。

また、新川と国道16号が交差する辺りには、開館から20年で累計来場者数が1400万人となった道の駅「八千代ふるさとステーション」があり、生産者が見える安心安全な地元の野菜が毎日並べられています。対岸の「やちよ農業交流センター」では、いちご狩りやブルーベリー狩り、枝豆などの収穫体験、人気シェフが教える

料理講習のほか、芝生広場でのバーベキューも楽しめます。

特産の梨と市の花「バラ」

市内ではさまざまな農産物が育てられています。1914年(大正3年)に栽培が始められ、100年を超える歴史があります。現在は62軒の農園があり、幸水、豊水、新高など20品種以上が栽培されています。8月中旬には、市内のあちこちで直売所が開かれ、それぞ



木で完熟したものを直売所で販売する八千代の梨は格別の瑞々しさ



奥に見えるガゼボはブライダルマザー桂由美さんのプロデュース

これの梨園や品種ごとのおいしさを
楽しむことができます。
市の花は「バラ」で、市内には、
1600品種、1万株のバラを所
有し、品種改良で世界的に高い評
価を受けている「やちよ京成バラ
園」があります。ロマンチックな
スポットを選定する「恋人の聖地」
に選定されており、春と秋には色
とりどりのバラが咲き誇り、多く
の観光客が訪れます。

地域の魅力を より高めるために

本市はこれまで、大正・昭和の

京成本線の駅開業、平成の
東葉高速線の開通という、
鉄道による2回の変革を
経て発展し、人口は現在も
増加し続けています。

しかし、昭和50年代以前
に開発が行われた地域で
は、団塊の世代が多く、高
齢化と少子化が進行し、人
口減少が始まっています。
新たに開発された地域で
は人口は増加しているも
の、保育園・学童保育所
などの不足が課題となっ
ています。

こうしたことから、2017年
度にUR都市機構と包括協定を締
結し、高齢者から子育て世代まで
のニーズに対応したまちづくり
と、住宅団地の再生・再編などに
連携・協力していく体制を整えま
した。

同時に、SNSをきっかけとし
た地域住民による次世代のコミュ
ニティの形成を目的として、SN
Sアプリ「PIAZZA（ピアツ
ツア）」を運営するPIAZZA株
式会社、UR都市機構、八千代市
の3者による協定を締結しました。
子育ての応援として、保育園の

整備や運営を支援し、民間保育園
の施設整備促進と保育士の処遇改
善などを行って待機児童解消に力
を入れていくほか、教育環境づく
りとして、小中学校のICT環境
を整備し、全普通教室へのエアコ
ンの設置とトイレの改修などに向
けて取り組んでいます。
また、新川をより魅力ある憩い
の場所とするため、印旛沼流域6
市町と千葉県などの関係機関で連

プロフィール

- ◆ 面積 51・39 km²
- ◆ 人口 19万8454人
- ◆ 世帯数 8万8043世帯

〔将来都市像〕 快適な生活環境と安ら
ぎに満ちた都市 八千代

〔まちの特徴〕 都心から1時間足らず
というアクセスの良さと、豊かな緑に
恵まれた都市と自然のバランスに優れ
たまち

〔特産品〕 梨、バラ、にんじん、八千
代桜（日本酒）



八千代市長
服部友則



携して事業を行う「印旛沼流域か
わまちづくり計画」に登録し、川
の水辺にトイレ、休憩施設、駐車
場および船着き場などの整備を進
めています。
都心まで1時間足らずというア
クセスの良さと豊かな緑に恵まれ
た環境を生かしながら、地域の魅
力をより高め、「緑豊かな環境で、
安心して子育てができる八千代
市」を目指していきます。

〔観光〕 新川遊歩道、新川千本桜、道
の駅やちよ、やちよ京成バラ園
〔イベント〕 八千代ふるさと親子祭、
ニューリバーロードレース、源右衛門
祭、ローズフェスティバル、八千代ド
ーンと祭、東葉サマーコンサート、東葉
家族車両基地まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、
人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

ちようど良い田舎から、子どもたちが輝き出す
—共生の阪南スタイルの創出—「ちようど良い田舎」は
魅力満載

関西国際空港は世界から人を受け入れ、世界へ飛び立つ玄関口として成長を続けています。阪南市は空港まで30分、大阪市中心まで40分、和歌山市まで20分の立地に



「日本の夕陽百選」に選ばれた「びちびちビーチ」夕景

あり、気候は温暖で、軽犯罪が大

阪府内一少ない安全ナンバーワンのまちです。また、3漁港を抱える豊かな里海、銀の峰・紀泉アルプスを有する美しい里山が近接し、歴史・文化の香る街道・町並み・佇まいを育ててきました。

グローバルでローカルなまち、グローバルシティ阪南は、「ちようど良い田舎」を舞台に、市民や企業などが主導し、公民協働で、懐かしい未来に活況する、元気でやさしいまちを創ります。

そこでは、子どもたちもまちづくりの主人公として、輝き出します。

ネクストステージを
共創で切り拓く

ベッドタウンとして発展してきた本市は、2040年には、人口

と稼働年齢層が30%減少する一方で、後期高齢者は50%増加が予想され、市政運営は未経験の社会的局面(「ネクストステージ」)に入ります。

本市の将来像「ともにさかそう笑顔とお互いさまのまち 阪南」の実現へ、柱となる政策を強く推進するため、「はんなんメソッド」をもつて、すべての施策事業を対象に再構築し、市民・事業者・行政が、互いに支え合い、協働・共創の姿勢に転換し、市民の役割を顧客からプレイヤーへ、行政の役割をプレイヤーからコーディネーターへと変えていきます。協働・共創の推進を重点に置き、誰もが安全に安心して暮らせる「誰も一人ぼっちにしない、誰も排除しないまち」、共生の地域づくりの実現に向け努力しています。

12小学校区では「学習↓活動↓まちづくり」という社会教育での「智の循環」を重視し、自分たちのまちは自分たちで守り、創るとする福祉のまちづくり計画を通して、地域内分権の強化を目指しています。

また、2017年から「阪南ほっこりプロジェクト」と呼ぶ、地域で長く展開されている自主的な住民活動と連携し、生活上のさまざまな問題・課題を、地域の皆さんが「我が事」としてとらえ、主体的に解決を図る仕組みづくりに「丸ごと」支援できる体制を、地域包括ケアを基盤に行政と協働で創ろうとしています。

今、子どもたちが
まちづくりを牽引する

地域での福祉のまちづくりは、担い手が固定化・高齢化し、活動継続に困難を抱えています。住民懇談会でそのことを知り、全校集会で地区活動者から呼び掛けを受けた子どもたちが、その担い手と

して名乗りを上げました。

その活動は目覚ましく、今では1小学校・3中学校で、地域でボランティア活動を展開しています。話し相手となったり、掃除をしたり、車いすを押しして「スーパードで買物をしたかった」という、ある住民の夢を叶えたりするなど、子どもたちだからできる関係性を生かしながら、活動の担い手として育っています。

豊かな自然、歴史文化がシビックプライドを醸し出す

本市には、白い砂浜と青い海に恵まれた美しい「ぴちぴちビーチ（箱作海水浴場）」があり、3漁港周辺では、大阪湾で捕れる新鮮な海産物を扱うお店が多く並んでいます。また、山に目を向ければ、紀州街道の趣ある町並みが、春に見事な桜並木で彩られ、

山に目を向ければ、紀州街道の趣ある町並みが、春に見事な桜並木で彩られ、



11月開催の「全国アマモサミット2018 in 阪南」

山中溪^{やまなかたに}では1年を通してハイキングを楽しむことができます。秋には、各地区の「やぐら」が集まり、それぞれ自慢のやぐらの曳行を披露する「やぐらパレード」や、地元神社を駆ける「秋祭り」が楽しめます。

「第11回全国アマモサミット2018 in 阪南」は、大阪湾から世界へ

全国アマモサミットは、「アマモ」や「アマモ場」を象徴的なキーワードとして、海の自然再生・保全を目指す全国大会です。別名「茅渟^{ちぬ}の海・魚庭^{ないわ}の海」と呼ばれる魚介類が豊富な大阪湾に面し、大都市や空港を間近にしながらもアマモが育つ、本市の豊かな海辺を

守り育てる必要があります。テーマは泉州弁で「ここにある魚庭の海 きづこら・うごこら・つなごら」。全市民の活躍を目指した「50000の約束」としました。が、やはり牽引役は地元小学生たちの「海の守り隊」活動です。アマモ、海、大阪湾にかかわる人たちや各団体をはじめ、広く全国の海にかかわる人たち、NPO・産官学が協働して学び合い、活動を広げていきます。

プロフィール

- ◆ 面積 36・17km²
- ◆ 人口 5万4805人
- ◆ 世帯数 2万4208世帯

〔将来都市像〕ともにさかそう 笑顔とお互いさまのまち 阪南

〔まちの特徴〕古い歴史を有し、関西国際空港に近く、海・山が近接する自然環境に恵まれた大阪近郊都市

〔特産品〕水なす、和牛、泉ダコ、海苔、



阪南市長 水野謙二



牡蠣、日本酒、おかし、和紙の布、破魔矢
〔観光〕歴史街道、わんぱく王国、波太神社、浪花酒造、ぴちぴちビーチ（箱作海水浴場）、狙石山ハイキング
〔イベント〕山中溪桜祭り、はんなん産業フェア、全日本ビーチパレード、ジュニア男子選手権、潮干狩り、せんなん里海さくらフェス、秋祭り



地元小学生によるアマモ学習活動

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

づつながりぐいで創る 賑わいと豊かさを実感できるまちへ

素晴らしい資源を最大限に生かしたまちづくりへ

雲仙市は、長崎県の南東部、島原半島の北西部に雲仙普賢岳を取り巻くように位置し、肥沃な大地や有明海と橘湾の2つの海を生かした農林水産業と、泉質の異なる雲仙温泉と小浜温泉、四季折々の美しい景観、温暖な気候、豊かな



朝日に輝く、白銀と光の芸術「雲仙岳の霧氷」

風土などを生かした観光業を基幹産業とする自治体であります。

本市もほかの自治体と同様、人口減少問題を抱える中、その克服に向け、2014年度から定住促進などの取り組みを開始し、2017年には「雲仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を内包した「第2次雲仙市総合計画」を策定し、総合的な地方創生への取り組みを進め、「自然とのつながり」「人とのつながり」「市民や地域、近隣とのつながり」を基本とした「づつながりぐいで創る賑わいと豊かさを実感できるまち」の将来像の実現に向けた取り組みを加速しております。

「自然とのつながりぐい」による産業振興策

本市の風光明媚な自然環境は、

地域活性化に欠かすことのできない資源であり、国内初の国立公園「雲仙天草国立公園」、世界ジオパーク「島原半島ジオパーク」に加え、本年6月には「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産へ登録されることになり、本市が有する関連資産も再認識されております。

このような素晴らしい自然は、私たちの生活に大変重要なかわりがあり、ここでは2つの取り組みを紹介いたします。

1点目は、再生可能エネルギーへの取り組みであります。本市では、2011年度から民間事業所や大学生と連携し、未利用温泉水を活用した、バイナリー発電事業を確立させ、また、2016年度からは、近隣3市で取り組む「島原半島エコプロジェクト」による

さまざまな事業に取り組んでおります。本年度に入り、バイオマス事業や地熱発電事業など、行政や民間事業所による取り組みがさらに活発化しており、「再生可能エネルギーのまち」に向け、暮らしや経済への波及を目指しているところであります。

2点目として、観光産業の変革であります。近年の観光業を取り巻く環境は、多様化する観光ニーズへの対応に加え、経営の改善等を迫られるなど、大変厳しい状況が続いておりますが、国立公園、世界ジオパーク、世界遺産など、ほかの地域では類を見ない素晴らしい地域資源を最大限活用し、真の実力を備えた「ここにしかない本物の観光」を築くため、自然の魅力と地域の皆さまの力をつなぎあわせ、確かな発展に結び付けたいと思っております。

「人とのつながりぐい」による地域の活性化

人口減少はわが国の最重要課題



クリエイターを中心に新たな地域づくりが進む本市小浜町刈水地区

であり、国は少子高齢化への対策を余儀なくされております。

本市におきましても、そのような社会環境の変化に対応しつつ、誰もが安心できる地域社会を目指し、地域の活性化につながるコミュニティ対策や、定住促進などの対策を講じてきておりますが、人口減少に歯止めを掛けるには至っていない状況であります。

このような「行き詰まり感」が漂う中、打開策とも呼べる取り組みを展開されている地区がございます。

まず、農業を地域産業とする本市国見町の八斗木地区では、地域特産品である「八斗木白ネギ」のブランド化に取り組みされており、2011年度から実施した県営圃場整備により、規模拡大に資する農業経営基盤を確立されております。その結果、後継者の確保・育成や地域コミュニティの形成にも成果が表れ、出生数が増加傾向に転じております。

また、温泉街に隣接する本市小浜町の刈水地区は、小浜出身のデザイナーを中心に、自然環境を生かしながら、住民の暮らしと観光をつないでいくという地域活性化プロジェクト「刈水エコビレッジ構想」に2013年から取り組まれており、現在、さまざまな地域からクリエイターが集まり、新たな地域づくりに取り組んでおります。

「市民や地域、近隣とのつながり」による魅力ある雲仙市の確立について

本市が持続的な発展を遂げるためには、産業の活性化や交流

人口の拡大などによる経済の活性化が不可欠です。これにより雇用を生み出し、人口流出に歯止めを掛けることで、地域全体に活力がみなぎるなど、賑わいの好循環を生み出します。

さらには、地域コミュニティをはぐくみながら、結婚から出産、子育ての支援はもとより、介護や福祉のまちづくりを進化させるこ

とで、市民一人一人が、雲仙市に住んで良かったと思えるような「豊かさ」を実感できるよう、自然と「人」を財産として市民や近隣自治体との「つながり」をはぐくみ、本市ならではの特性を生かし、「つながり」で創る賑わいと豊かさを実感できるまちづくりに向け、施策の展開を強力に進めてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 214.31km²
- ◆ 人口 4万4190人
- ◆ 世帯数 1万7271世帯

〔将来都市像〕「つながり」で創る賑わいと豊かさを実感できるまち

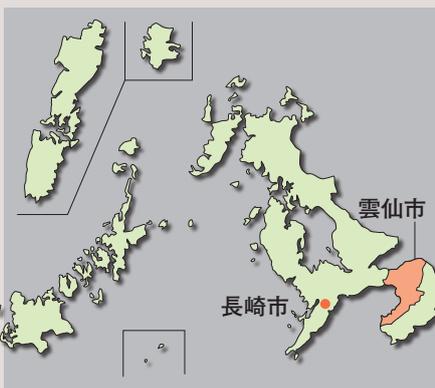
〔まちの特徴〕美しい海岸線や雄大な自然環境を有し、歴史と文化に恵まれたまち

〔市町村合併〕平成17年10月11日、国見町、瑞穂町、吾妻町、愛野町、千々石町、小浜町、南串山町が対等合併。

〔特産品〕たいらガネ（ワタリガニ）、



雲仙市長 金澤秀三郎



いちじく、メロン、ばれいしょ、お茶、花き、吾妻みそ、雲仙こぶ高菜

〔観光〕雲仙地獄、ほっとふっと105（小浜温泉足湯）、神代小路地区（武家屋敷群、鍋島邸、愛野駅）

〔イベント〕雲仙市民花火大会、小浜温泉ジャカランダフェスタ、雲仙市湯・YOUマラソン、雲仙灯りの花ぼうろ、観櫻火宴

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。